

2026 年 10 月 14 日

国際ニッケル研究会（INSG）2026 年 10 月プレスリリース

日本鉱業協会 企画調査部

2026 年の秋季国際ニッケル研究会（INSG）総会は、2026 年 10 月 12 日と 13 日にボルトガル共和国リスボンで開催され、加盟国の政府および業界代表、オブザーバー、および複数の国際機関が出席し、ニッケル市場の最新動向について幅広く議論した。10 月 13 日付けで発表されたプレスリリースは次の通り。

1. 2026 年および 2027 年のニッケル市場の見通し

2026 年の世界経済成長は予想を上回る堅調さを維持しており、来年は安定化すると見込まれているが、見通しには依然として高い不確実性が存在する。中東における紛争はエネルギー価格を押し上げ、多くの経済圏でインフレ率を目標水準以上に維持させている。各国政府は価格上昇の影響を緩和するための措置を導入しており、一部の中央銀行はインフレ抑制のため金利を引き上げている。AI 関連の力強い活動は引き続き投資、生産および貿易を支えている一方で、強いエルニーニョ現象に関連する天候由来の供給ショックが一部地域に影響を及ぼす可能性がある。

世界最大のニッケル生産国であるインドネシアは、年間事業計画および予算（RKAB）制度の下で、2026 年のニッケル鉱石生産割当を 2025 年より低い水準で承認した。政府は、改訂を含む RKAB 承認について、需給状況を考慮しているとしている。2027 年分の RKAB 申請は 2026 年 10 月 1 日から 11 月 15 日まで提出可能である。

世界ステンレス協会は、2026 年上半期の世界のステンレス粗鋼生産が前年比 5%増加したと報告した。INSG は、ステンレス鋼部門が 2026 年下半年期および 2027 年を通じてさらに拡大すると見込んでいる。世界の電気自動車販売は 2026 年には小幅な成長にとどまる見込みであり、2027 年には回復が期待される。電池市場におけるニッケルの存在感も、リン酸鉄リチウム（LFP）系化学物質との競争に直面しているため、当初予想より緩やかな拡大にとどまっている。

世界の一次ニッケル生産量は、2024 年が 358.9 万トン、2025 年が 387.5 万トンであり、2026 年には 386.8 万トン、2027 年には 407.1 万トンに達すると予測されている。これらの推計には、生産障害の可能性に対する調整係数は含まれていない。

世界の一次ニッケル消費量は、2024 年が 347.3 万トン、2025 年が 357.7 万トンであり、2026 年には 384.9 万トン、2027 年には 400.2 万トンに増加すると予測されている。

したがって、市場バランスは 2024 年が 11.6 万トン、2025 年が 29.9 万トン、2026 年が 1.9 万トン、2027 年が 7.0 万トンの供給過剰となる。

INSG は、これらの数値、とりわけインドネシアの生産水準に関して一定の不確実性があることを認識している。

2. 統計委員会

統計委員会は、プレゼンテーションおよび市場討議を通じて、同委員会の作業計画に対する有益な意見提供を受けた。

インドネシア共和国 国家経済評議会 (Dewan Ekonomi Nasional) 事務局長の Septian Hario Seto 氏は、最近のインドネシアのニッケル産業の変化について講演した。

フィリピン鉱山地球科学局地域局長の Glenn Marcelo Noble 氏は、「フィリピン鉱業部門ー最新動向と重点開発」について概説した。

3. 業界諮問委員会

世界のニッケル生産、消費およびリサイクル産業の代表者で構成される産業諮問委員会も、研究会に有益な情報を提供した。

SMR (Steel & Metals Market Research [オーストリア／ドイツ]) 事業開発担当副社長の Gerhard Pariser 氏は、ステンレス鋼に関する最近の動向について講演した。

中国 Shanghai Metals Market (SMM) の上級調査アナリストである Izzy Huo 氏は、「ニッケル成長の次の段階：異なる製品経路によって定義される成長」をテーマに発表した。

英国 Benchmark Mineral Intelligence のシニアニッケル市場アナリストである Christophe Moulin 氏は、「電池用途におけるニッケル利用ー板挟みの状況」を概説した。

4. 環境経済委員会

環境経済委員会では、持続可能なニッケル生産を中心に議論が行われ、以下の発表が行われた。

Nickel Institute 市場調査マネージャーの Parul Chhabra 氏は、ニッケル用途の促進およびニッケルに影響を与える可能性のあるメガトレンドについて講演した。

イタリア環境・エネルギー安全保障省の地質学者 Alberto Mazzoldi 氏は、「変化する世界におけるニッケル供給：電池、循環性、そして新たな重要鉱物政策」について講演した。

5. 合同学習グループセミナー

「流動資産：鉱業・金属産業における水管理」をテーマとする合同セミナーが、2026 年 10 月 14 日に国際ニッケル研究会（INSG）、国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）および国際銅研究会（ICSG）によって共同開催される。

6. INSG の次回会合の日程

次回の研究会会合は、2027 年 4 月 12 日に始まる週に開催される予定である。

講演者から提供されたプレゼンテーション資料は、INSG ウェブサイトの会員専用エリアに掲載される。詳細については事務局 (insg@insg.org) まで問い合わせるか、www.insg.org を参照のこと。

以 上